

奈良県の通級の先生と共に

# 子どもの学びに活かす ハンドブック



奈良県立教育研究所

はじめに

我が国では、障害のある子どもとない子どもが、可能な限り共に学ぶことを追求するとともに、障害のある子どもの自立と社会参加を見据えて、一人一人の教育的ニーズに応じた多様で柔軟な仕組みを整備することを進めています。そのためには、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった「多様な学びの場」を充実させ、一人一人の学びを保障していく必要があります。

そこで、奈良県では、平成29年度「自閉症・情緒障害通級指導教室設置モデル事業」をスタートさせました。子どもたちの教育的ニーズに合った学びの場としての通級指導教室を一層充実させ、通級担当教員の更なる専門性の向上を目指し取り組んできました。2年間のモデル事業を進めていく中で、通級による指導に対するニーズや期待の高まりが明らかになったことから、この度、「子どもの学びに活かすハンドブック～奈良県の通級の先生と共に～」を作成しました。通級による指導をより効果的なものにするとともに、その成果を通常の学級での授業や生活に活かすことができるよう、通級担当教員だけでなく、通常の学級担任、特別支援教育コーディネーターにも活用していただきたいと考えています。また、通常の学級には、通級による指導を受けてはいませんが支援や配慮を必要としている子どもたちも在籍しています。一人一人の子どもの教育的ニーズに気づき、支えるためにも多くの先生方に参考にさせていただけると幸いです。

最後に、本ガイドブックの作成において、日々実践を重ねてこられた通級の先生方に委員として、様々な実践事例やコラムを御提供いただくなど多大な御協力をいただいたことに対し、深く感謝申し上げます。

平成31年3月

奈良県立教育研究所

副所長 石井 宏典

## 目 次

### 理 論 編

- 1-1 通級とは (P1～5) 通級による指導とは  
通級による指導の対象となる児童生徒は  
教育課程の編成  
授業時数 指導内容  
指導に当たって
- 1-2 通級担当教員の役割 (P6)
- 1-3 連携の大切さ (P7～10) 特別支援教育コーディネーターとの連携  
通常の学級担任との連携  
保護者との連携  
関係機関との連携
- 1-4 通級を設置するに当たって (P11) 市町村の教育委員会として留意すること  
設置校として配慮すること

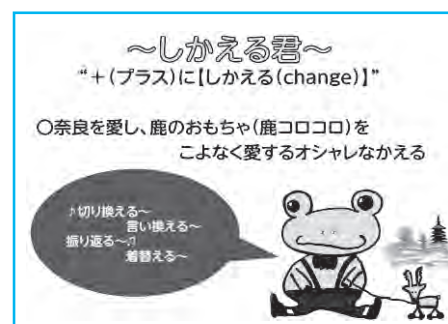
### 実 践 編

#### 事例番号

- 2-1-1 読み書き計算 ひらがなが読めるようになったよ
- 2-1-2 読み書き計算 漢字を覚えられたよ
- 2-1-3 読み書き計算 これならできる！
- 2-1-4 読み書き計算 英単語を覚えられるようになったよ
- 2-1-5 読み書き計算 こんな勉強方法があるんだ
- 2-2-1 構音 力行がうまくお話できるようになったよ
- 2-2-2 構音 サ行がうまくお話できるようになったよ
- 2-2-3 構音 大きな声ではっきり話せるようになったよ
- 2-2-4 構音 自信をもって話せるようになったよ
- 2-3-1 感覚 うまく体を使えるようになったよ
- 2-3-2 感覚 うまく手先を使えるようになったよ
- 2-3-3 感覚 触って、モデルのポーズをつくろう
- 2-3-4 感覚 じっくり考えて行動できるようになったよ
- 2-4-1 自己理解・社会性 自分の得意なことや苦手なことが分かったよ
- 2-4-2 自己理解・社会性 友だちに「遊ぼう」と言ってみよう
- 2-4-3 自己理解・社会性 安心できる友だちと居場所が見付かったよ
- 2-4-4 自己理解・社会性 会話で困ったときどうしよう～〔難聴理解かるた〕を使って～
- 2-4-5 自己理解・社会性 みんなで話そう 吃音のこと
- 2-5-1 理解啓発 学級で話をするときに

### 資 料 編

- 3-1 教材・教具等一覧
- 3-2 シートの具体例



# ～理論編～



コラムは通級の先生方から  
これまでの経験や思いを寄せていただきました

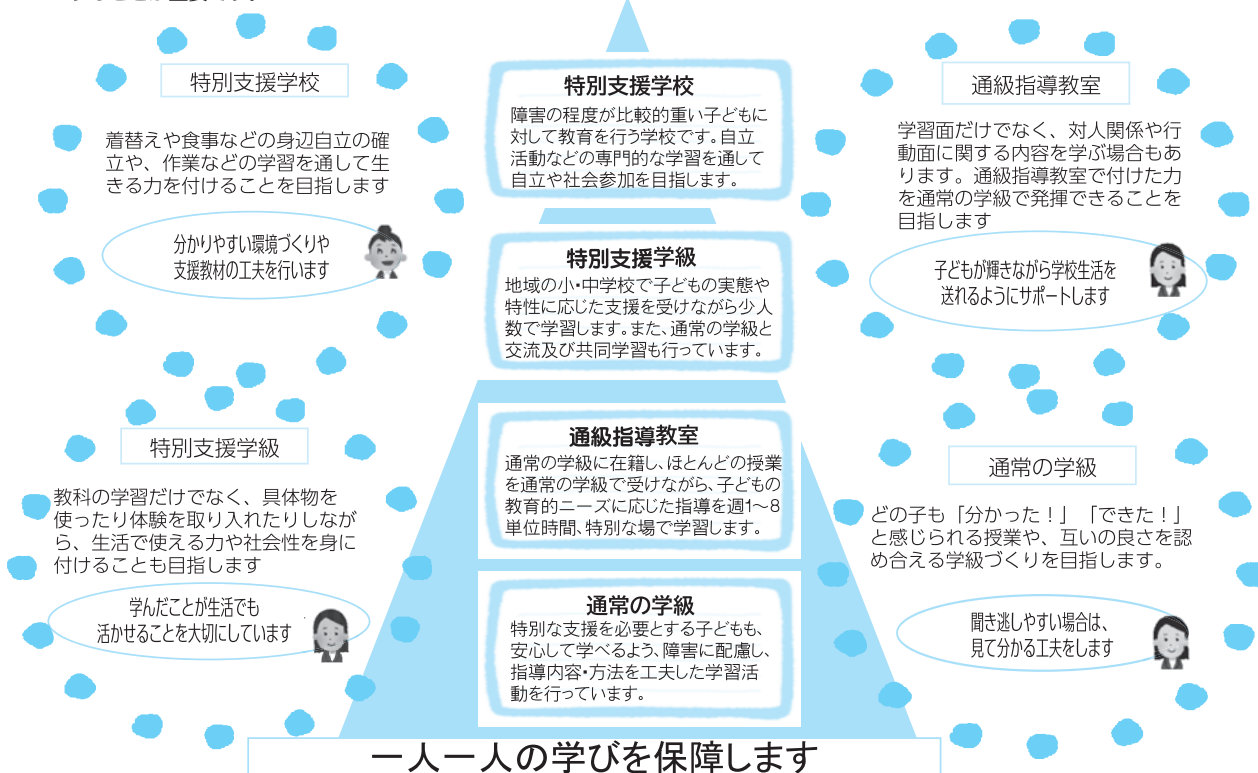
## 1-1 通級とは

### 通級による指導とは

通常の学級に在籍する障害のある児童生徒のうち、教室環境の整備や教材・教具の工夫だけでは、落ち着いて学校生活を過ごすことや学力の定着を図ることが難しい児童生徒がいます。そのような児童生徒に対して、各教科等の指導の他に、学習場面や生活場面で生じる困難を改善・克服するために、障害に応じた特別の指導を「通級指導教室」（以下、通級）といった特別な場で受ける指導形態があり、それを、「通級による指導」と呼びます。対象となる児童生徒の在籍校に設置されている通級で学ぶ場合を「自校通級」といいます。また、他校にある通級に通って指導を受ける場合を「他校通級」、児童生徒の在籍校に通級指導教室担当の先生(以下、通級担当教員)が巡回して指導を行う場合を「巡回指導」といいます。通級は、多様な学びの場の一つとして重要な役割をもっています。

### 子どもの教育的ニーズに応える多様な学びの場

「多様な学びの場」とは、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった学びの場のことを示しています。インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要です。



#### コラム① 《通級とは…》

通級に通う子どもは様々な原因によって、自信や意欲を失くしていることが多いです。まずは、それらを少しでも高めていけるように子どもの実態に寄り添った指導をします。そして同時に、子どもの願いや思いに耳と心を傾け、共感し、支援していきます。本当に心がしぼんでしまっている子どもにとっては、エネルギー充電の場所という役目ももっています。通級は、子どもの笑顔を大切にしながら、人と人との前向きなつながりを構築していけるように応援しています。

